

～令和6年度優秀映画鑑賞推進事業～

名画鑑賞会「時代を創ったあの映画」を開催します

優れた映画の鑑賞と映画保存への理解を深めていただくことを目的に、国立映画アーカイブが、日本各地の文化施設と連携・協力して、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で行っており、本市においても、市内の3施設で上映します。

日本の映画シーンを華やかに彩った名画を、当時の感動そのままに、スクリーンで楽しんでみませんか。

1 上映スケジュール

日程	開場	開演	作品	上映時間	監督	場所
9月25日(水)	12:45	13:00	貸間あり	112分	川島 雄三	サン・エールさがみはら (緑区西橋本5-4-20)
	15:15	15:30	喜劇 女は男のふるさとヨ	90分	森崎 東	
10月17日(木)	11:30	11:45	幻の光	109分	是枝 裕和	国立映画アーカイブ相模原分館 (中央区高根3-1-4)
	14:00	14:15	愛を乞うひと	135分	平山 秀幸	
10月18日(金)	11:30	11:45	GO	123分	行定 勲	相模原南市民ホール (南区相模大野5-31-1)
	14:15	14:30	ゆるる	119分	西川 美和	
11月7日(木)	11:30	11:50	幕末太陽傳	110分	川島 雄三	相模原南市民ホール (南区相模大野5-31-1)
	14:00	14:20	おかしな奴	110分	沢島 忠	

2 入場料・チケット購入方法

(1) 入場料 (全席自由。各回入れ替え制)

1 作品券 : 500 円、2 作品セット券 : 900 円

※2 作品セット券は、同会場の別の上映作品 (別日程含む) のみ組み合わせ可。

(2) 購入方法 (8月1日(木) 午前10時～) ※インターネットは1作品券のみ取扱い

(電話予約) チケット Move 042-742-9999

(インターネット) チケットぴあ (<https://t.pia.jp/>)

チケットムーヴ.net (<http://move-ticket.pia.jp/>)

(窓口販売) チケット Move 窓口

会場窓口 (国立映画アーカイブ相模原分館を除く)

※各会場のチケットのみ

当日券 (各会場窓口) ※各会場のチケットのみ

3 主催 相模原市優秀映画鑑賞推進事業実行委員会 (相模原市 / (公財)相模原市民文化財団 / 日本環境マネジメント (株)) / 国立映画アーカイブ

特別協力 文化庁 / (一社)日本映画製作者連盟 / 全国興行生活衛生同業組合連合会 / (株) KADOKAWA

問合せ先

文化振興課

直通042-769-8202

(参考) 作品紹介

○貸間あり

川島雄三監督の晩年の代表作。遙か通天閣を見渡す大阪・天王寺の夕陽ヶ丘に立つ風変わりなアパートに暮らす、奇妙な住人たちの生態を、下品さと紙一重の人間臭い猥雑さのなかに描いている。熟練のバイプレーヤーたちが、怒涛のように畳み掛けるアンサンブルも圧巻。



○喜劇 女は男のふるさとヨ

森崎東監督の作品。松竹の喜劇「女」シリーズの第1作。東京新宿でストリッパーを斡旋する芸能事務所には、身寄りがなく、貧しいけれども逞しいダンサーたちが、人情に厚い経営者夫婦の「家族」として住んでいた。ふとしたトラブルから旅回りを決意したダンサーと、彼女を真面目に慕うひとりのファンが、改造した自動車で日本列島を南へと向かう。



○幻の光

是枝裕和の劇映画監督第一作。幼い時に祖母の失踪を防げなかったことを悔いる女性が、幸せな結婚生活の最中に突然、夫に自殺されてしまう。数年後、幼子を連れて能登の一家に嫁いだ彼女は、新しい家族と平穏で幸福な日々を過ごすか、かつて愛する人に去られた心の傷が彼女の心を苛んでいく…。「キネマ旬報」ベストテン第4位、ヴェネチア国際映画祭金のオゼッラ賞ほか、国内外で多くの賞を受賞。



○愛を乞うひと

平山秀幸監督が国内の映画賞を独占した作品。実母から凄惨な虐待を受け続けて育った女性が、中年となり、幼い時に死に別れた父親の遺骨を探して娘と共に台湾へ向かう。母と父の過去を通して、母と自身に向き合っていく…。「キネマ旬報」ベストテン第2位、モントリオール映画祭では国際批評家連盟賞を受賞。



○GO

行定勲監督の作品。在日韓国人三世の高校生が、親世代との関係、魅惑的な恋、親友の喪失、自らの将来に煩悶しながら、アイデンティティを確立していく物語。「キネマ旬報」ベストテン第1位のほか、同年の国内映画賞を作品賞、監督賞、主演・助演・男女優賞、脚本賞など独占した。



○ゆるる

西川美和監督の長編第2作。「キネマ旬報」ベストテン第2位の他、多数の賞を受賞。プレイボーイの弟を演じたオダギリジョーと家業を継いだ真面目な兄役の香川照之も多くの男優賞を受賞。母の一周忌で故郷の実家に帰った写真家が、恋人だった幼馴染と兄の親しい様子を見て、兄に隠れて彼女を誘う。翌日、兄と彼女と一緒に渓谷へ出かけるが、彼女がつり橋から転落し、一緒にいた兄は裁判にかけられる…。



○幕末太陽傳

川島雄三監督の作品。金もないのに品川遊廓でお大尽遊び、やむなく居残りとなったが遊廓の人気者として要領よく生きてゆく男の姿を描いた時代劇コメディ。フランキー堺扮する居残り佐平次は、軽妙な味を見せながらも実は胸を病んでいるという設定であり、その姿には川島監督が一貫して作品に投影してきた底深い虚無を垣間見ることができる。「キネマ旬報」ベストテン第4位



○おかしな奴

沢島忠監督の作品。自ら「珍顔」を名乗り、戦後の落語界で爆発的な人気を誇った風変わりな落語家、三遊亭歌笑の短い人生を描いた東映作品。実在の歌笑はナンセンスな笑いを得意としたことで知られたが、沢島監督はあえてこの落語家の生涯を、滑稽な笑いばかりでなく、夫婦愛を軸にそこはかとない哀しみを込めて描いている。

